

【久松】地域の未来づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 令和5年11月21日(火) 19時00分～20時00分
- 2 場所 久松地区公民館
- 3 出席者 地区26名 市12名(竹間市民生活部長、森山危機管理部長、植田危機管理課長、坂本農林水産部長、増田農政企画課長)
- 4 テーマ ①安全で安心して暮らせる町づくり(防災力向上)について
②安全で安心して暮らせる町づくり(野生動物対策)について
- 5 概要

【地元あいさつ】

本日は、地域の未来づくり懇談会ということで、市幹部職員等にお越しいただき地区の皆様と2つのテーマについて意見交換を行う。1つは防災力の向上について、もう1つは野生動物対策ということで害獣駆除の問題について意見交換を行う。

【市民生活部長】

当地区から「安全で安心して暮らせる町づくりについて」というテーマを上げていただいた。地域の皆さんが今後も安心して暮らし続けられるよう、地域と市で前向きな話ができればと思い懇談会を提案させていただいている。本日は、皆さんから忌憚のないご意見を伺いながら市でもできることを考えていきたいと思っている。

【危機管理部長】

当地区の地域の未来づくり懇談会で「安全で安心して暮らせる町づくり(防災力向上)」というテーマを選んでいただきお礼を申し上げます。

この夏には7月の豪雨、それから台風第7号の災害が全市的なレベルで起こり、初めて全市域に大雨特別警報に基づく情報も出させていただいた。そのときの本市の動きや考えも意見交換の中で話をさせていただければと思う。今後とも地域の皆様と一緒に防災力の向上に努めたいと考えている。

【農林水産部長】

最近、非常に夏が暑かったり冬が寒かったりということがあり、野生動物の動きが今までとまた少し変わっている状況がある。北海道や青森ではクマによる被害のニュースが毎日のように入ってきている。

本日は、野生動物対策ということで来させていただいた。意見交換は貴重な時間だと思っている。ご意見をいただき対応について皆さんと一緒に考えていきたい。

テーマ①「安全で安心して暮らせる町づくり(防災力向上)について」

【地元(説明)】

(テーマ①の)趣旨を説明させていただきたいと思う。

地域の未来づくりということで、「防災力向上」は市と地元が一体となって取り組んでいくべき課題と考えている。

災害時には市の支援、応援がなかなか受けられないということが考えられるため、住民の命をいかに守るかということで地域としていろいろな取り組みをしている。避難所の開設についてマニュアルを作り、開設訓練を2年続けてしている。

今年の台風第7号で17時前にレベル5(緊急安全確保)が発令されたとき、公民館長に公民館を開けられるかという話があった。(防災会も)一緒になって開け、37人の方が避難された。水位も下がり皆が帰りだした夜10時を過ぎてから、久松小学校を避難所として開設するという話があったが誰も行かなかった。そういう状況から、まず市と地元が連携するのが難しいと、課題として受け止めた。

公民館で避難所を12時頃まで開設し避難者数など報告していたが、後で市の資料を見ると、久松地区公民館は避難所として上がってない。なぜか。この状況で、市と地域が連携できるのか非常に心配をしている。

当地区は、特に南北に約3キロある細長い地区で、しかも山を抱える危険箇所という中で、当公民館を第1に避難所とできるように考えているが、入れて最大150人程度では絶対足りないと思っている。

市はどう考えているのかお聞きしたいし、地域と市と一緒に考えていくためにはその辺を明確にさせていただいて、意見交換をしていかないとと思っている。

【危機管理課】

本市の考え方やそのときどうだったかをお話させていただきたいと思う。

まず、このたび緊急安全確保を全市的に出した。このような事態は今までなかった。なぜこれを出したかというところからご説明をしたい。

通常、避難情報(高齢者避難や避難指示)を出す場合には、本市では関係する河川の水位であるとか、土壌雨量指数(土壌の中にどれほど水が染みているのか)、今後雨がどれほど降り続くのか、そのようなデータとかをつぶさに観察しながら、必要などころに(必要な情報を)出していくというのが基本的な考えである。

この度の状況はどうだったのか。実は、この緊急安全確保を出す前に(高齢者避難や避難指示を出した地域もあり、)26か所の避難所を開設していた。この日、最終的にこの緊急安全確保を全市的に出したがこれは何か。お配りしている総合防災マップの58ページをご覧ください。一番上の黒い段階(警戒レベル5)になる。

気象庁が「大雨特別警報」を発表したことにより、本市は「緊急安全確保」を出させていただいた。気象庁が発表した具体的な内容は、

- ・鳥取市北部・南部に大雨特別警報を発表した
- ・何らかの災害が既に発生している可能性が極めて高く、警戒レベル5に相当する
- ・命の危険が迫っているため、直ちに身の安全を確保しなければならない状況である

というものであり、本市としても直ちにこの「緊急安全確保」を出させていただいた。「どこでどんなことが起こっているかわからない」と言っているのに、「どこが危ないかな」などと言ってられない。(直ちに)身の安全を確保していただくための情報として出させていただいた。

この「緊急安全確保」のときは、どのような行動が求められるのか。

総合防災マップにも警戒レベル4までに「全員避難」と書いてある。避難指示までは、避難所を設置し、そこに逃げてください、そこに避難してくださいという指示になる。緊急安全確保になると「直ちに安全確保」となる。総合防災マップの右下にもあるが「災害が発生または切迫し、命が危険です。危険な区域から避難できていない方は、山や窓から離れたり、高い場所へ移動するなど、少しでも安全が確保できるよう命を守る行動をしてください。」ということになる。

鳥取市全域の中でも川に近いところなど水が怖い地域がある。どこでどうなっているかわからないと言われている。何をすべきか。例えば、水位が最大でも2階までですむ方だったら2階の方に避難する、あるいは少しでも高いところに移動するなどが求められる行動だと思っている。土砂災害であれば、山に近い方から遠い平野の2階などに移動をして安全を確保する。これが緊急安全確保のときに求められる行動ではないかと考える。それなのに避難所というのはどうなのか。今回の公民館の位置づけや発令をした意味合いはどうか。このような行動を皆さんにお願いし周知を図らせていただいているが、なかなかそうならないかもしれないと考えた。

実際、この緊急安全確保以降に1,000名以上の方が各地域で避難をしている。やはり「避難」が出たら常日頃の行動として、地域の中で安全なところはどこかと学習もしている。当地区だったら久松地区公民館だろうという方も多かったのではないかと思う。逃げ込まれる方を受け入れる先を作らないといけない。盆ではあったが平日16時台だった。逃げ込み先として開けていただきと話をさせていただいたのが、そのときの本市の考え方である。

各公民館も災害の適用性がある。垂直避難をすれば水は来ないので、その後小学校やその2階以上を避難所とさせていただいた。すぐに避難所として設置をすると、外に出て逃げ込む方も多いただろう。先ほどと少し矛盾する話にもなるが、それを誘導してしまうことにもなるという考えもあった。水が膝ぐらいまで、水位が30センチあると溝とか見えなくなる。溝にはまって命を落とすケースも全国である。安全であることを確保・確認ができれば、避難所まで行っていただきたいところだが、わからないというような場合だと外に出ないことが第1選択になるのかなと思う。

本市としては、そのようなことをいろいろ考えながらこの度の災害対応をしてきた。全市的に「緊急安全確保」を出したのは初めての部分もあり、これまでも各地区自主防災会長のご意見もお聞きしている。それらも踏まえ、今後もしっかり検証して次の災害に備えていきたいと考えている。

【地元】

非常に不安があった。なぜ小学校は10時を過ぎてから開設されたのかをお聞きしたい。

【危機管理課】

いろいろなケースも考えられたかなとは思う。当初、緊急安全確保を出したとき、避難所としてどこかを開けるのはどうかを十分検討した。全市的ではなかったが、過去に緊急安全確保を出したエリアもあり、そのとき、小学校の2階は地域に一番なじみがあるだろうと開設をしたことがあった。それを覚えていれば、小学校に行かれるということもあるだろうから、そこも開けなければいけないということで避難所として設定をした。

緊急安全確保を出すまでに26か所の避難所を設置していたが、緊急安全確保により大方倍の避難所を全市的に設置するため、避難所に向かう人の手配、あるいはそれを輸送する手配、物の手配、いろんなことを用意してかからなくてははいけなかった。本市としても、全市的というのは初めてで非常に手間取ったところは否めない。しっかりと検証していきたいと思っているが、まずは人の輸送が今回一番のネックだったと思う。車で移動するにも全市的にどこでどんな状況が起こっているかわからないため、慎重に進めなくてははいけなかったこともあり、一部でこのような時間だったということ。どこを優先してというわけではなかった。

方法として、緊急安全確保を出したら、あるいは避難指示を出したらすぐに(避難所を)開設するというような方法もあろうかと思う。例えば小学校を5時なり6時なりという段階で開設するというような方法もあるかと思うが、そこが開いてないと、結局行っても戻らないといけない。行き帰りの道すがらどこがどんな状態になっているかわからないと気象台が発表している中で、非常にこれは危険があるかもしれないと捉え、その受け入れ準備ができたところから情報を出そうということで、情報が出たのはこの時間だった。

【地元】

輸送に大変時間がかかっているいろいろ検討したと言われるが、川の水位が下がるようになってから小学校を開設したという情報が出ていると思う。そんな状況で(情報を)出す必要が逆にあったのか。当地区は千代川が仮に氾濫したときに影響が少ないから小学校の開設を後回しにしたということがあるか。私達に見せていただける資料がないのか。

【危機管理課】

同時期に水位の話にもあったが、水位だけではなく土砂災害もずっと出ていた。全市的に土砂災害のエリアはある。久松山を背景にしているため、当地域にも土砂災害の危険性のあるエリアはあると思う。

【地元】

久松小学校は土砂災害があるのか。公民館は急傾斜地のすぐ近くなので、公民館を開けず初めに小学校を開けるべきだったのではないか。特別警戒地域は、公民館の敷地内に入っている。

【危機管理課】

防災マップの各避難所の適用性を見ていただきながらご説明したい。

防災マップの52ページに避難場所の一覧があり、各避難所の適用性がある。これの4番目に久松地区公民館（久松会館）はあるが、土砂災害の適用性は「○（丸）」で適用性があるとなっている。そういうエリアだと捉えている。

例えば、この判例の中に（特別警戒区域の）赤い枠が山の方とかあると思うが、適用性ということでは、久松地区公民館（久松会館）もそのエリアから抜けているということ。

【地元】

防災マップの48ページを見ても、久松小学校の方が遥かに安全ではないか。安全度から言えば優先順位が高いのではないか。なんでそれが10時過ぎてから開いたのか。

【危機管理課】

だからこそ、小学校を避難所としていうことで開設したが、皆さんのお気持ちもわかるのでご意見を伺いしっかりと受けとめさせていただきたいと思っている。

ただ、久松地区公民館（久松会館）は適用性があるので、土砂災害の際には公民館（久松会館）でもいいのかなと思っているし、先ほど会長からも当地区は公民館（久松会館）で（避難所を）考えているということだったが、今のお話からすると、地域の方々は公民館（久松会館）の方にあまり逃げたくない、逃げるのであれば小学校の方だというような感じで受け取っておられるのだろうか。

【地元】

今、私達は小学校と公民館の2施設でと考えている。本当はここがいいかどうかはわからないが、今ここに公民館があり資機材もあるからひとまずはここを。でも北中学校も指定緊急避難の地域になっている。だから、2階・3階となれば土砂災害でも免れるかもわからないのではないかな。そういうことだったということではいいか。

【危機管理課】

今のお話を聞いた上で、これからいろいろ検討するためにお尋ねしたのであって、台風第7号のときにそのような判断をしたということではない。台風第7号については、各地域の公民館は地域に一番なじみのある、そこに逃げられる方が多いだろうということをお願いをして、公民館を開設し、開けておいていただいたということ。以前の状況とか、小学校の適用性を考えて全市的に小学校の2階を開設させていただいたというのが今回の話である。

いろいろ検討すべきこととか判断をすべき段階はあったと思うが、鳥取市の全域の中でそれを判断して動いていて、1つ1つの地域について、全てにおいてつぶさに網羅し確認をして出したということではなかった。まずは、「緊急安全確保」ということで身の安全の確保をお願いするということ、出させていただいたのが小学校だったということ。逃げ込む先への行き来のこともあるので、外に出るのではなく2階への垂直避難とかも選べるようにもしていただきたいとの思いもありながらの判断だった。ご意見はこれからの災害対応にしっかり活かしたいと思う。

ぜひご意見としてお聞きしておきたいのは「2施設」ということで、地域としては公民館(久松会館)の方を優先していきたいということによかったか。

【地元】

それはちょっと違う。公民館(久松会館)は地域で開けやすい。すぐ開けられる。小学校は学校とか、教育委員会とかいろいろな絡みがあって簡単には開けられないので、公民館を第1に考えてやっているだけである。

我々との信頼関係を築くため、真摯に回答していただきたいと思っている。さっき公民館を開設したと言われるけど、なぜ記録には全然残してないのか。教えていただければと思う。

【危機管理課】

公民館(久松会館)は、避難所として開設したということではなく、本市としては、避難所として開設したのは小学校ということでは捉えている。

公民館は、盆ではあったが平日の開いている時間で、開いている公民館はあるという状況の中で、時間が来たから閉めるということにはならないと考えた。そのため、もうしばらく開けといてくださいということをお願いをしたのが今回の対応である。

小学校については、地域の方で開設ができるということであれば、どちらがいいのかというのは検討をされていくことになるだろうか。

【地元】

公民館は閉まっていたが、市の要請があって開けた。だから、地域と市の認識が全く違うし、議論していかないといけないかなと思うので、そういう機会をぜひお願いしたい。

【危機管理課】

公民館の状況について公民館職員の意見も伺っている。今後の公民館の位置づけについてしっかりと整理をするので、また自主防災会にもお知らせさせていただく。

【地元】

小学校が避難所になっていて、お堀側に資材の備蓄倉庫があると思う。毛布とか発電機とかが入れていると思うが、想定最大浸水深の深さを満たした床の高さになっているか聞きたい。なっていないければ、床の高さを上げてもらうとか他の場所にして欲しい。市の備品が置いてあると思う。備蓄倉庫が水に浸かったら意味がないと思うので、ここがどうかを見てもらいたい。防災会長に回答していただいたらと思う。

【危機管理課】

備蓄倉庫が置いてある場所がどうかということによいか。外にあるということだが、それは本市がお配りして体育館に置いているものか。後ほど具体的なことを調べて、防災会長に話をさせていただきたい。

【地元】

この会館に一番近い雨量計はどこにあるか。地元の方が以前から言っているが、まだついていない。久松山の周りに降った雨もこちらに流れてくるが測れてないと思う。お堀に注ぎ込む雨量も測れてないと思うが、先ほど雨量を細かく見ると言われた。それがわかってないところ久松山の雨量はわからないのでは。

【危機管理課】

雨量計としては、吉方にある気象台の雨量計になる。本市としては、雨量計とともに気象台が出している解析雨量も併せて見ている。ただ、お堀に水位計があったりとかはない。

【地元】

つけないと川が多くあるため(雨水が)注ぎ込む。お堀の中につけた方がいいのではないかと。先に鳥取気象台にも言ったが、久松山は目の前なので、きちんと検討して欲しい。いつ逃げたらいかわからない。

2つ目は、防災なので地震について聞きたい。今の市役所と旧市役所から久松側ではどちらが地震に強いのか。要は、防災備蓄を持ってくるのに適しているのはどこかということ。

【危機管理課】

地盤がどうかということによいか。今、確かなことは言えない。

テーマ②「安全で安心して暮らせる町づくり(野生動物対策)について」

【地元(説明)】

テーマ②に関して、趣旨を説明させていただきたいと思う。

当地区の東側は全て山で、クマが目撃された、イノシシが住宅街に出た、サルが住宅街を走っているなど以前から多数報告されている。当地区は農村部と違い全て住宅街で、なかなか地区単位、町内会単位で防ぐとことは難しい。北は丸山から南は上町の方までの山側の道路全てが、通学路になっている。子どもたちが被害を受けてはいないが、今ニュース等で人的被害が数多く報告されてきている。ただ単に動物対策だけではなく、防災とも繋がっていると考えている。住宅街、特に山側の住宅地の住民に対してどう考えておられるのか、市の意見を伺いたい。

【農政企画課】

当地区においても、過去からクマの目撃情報や、イノシシが箱わなで捕獲されている状況がある。令和5年にはクマの目撃が1件、イノシシの捕獲が2件と周辺に必ず野生動物がいることがわか

っている。イノシシについては、何か所か設置させてもらっている檻で捕獲している。クマはなかなか捕獲ができない状況で、数も多く出てきていないが、これに対しても何らかの対策をしていかないといけないと考えている。

【農政企画課】

本市の町の対策ということで、お話をさせていただきたい。

当地区の箱わなについては、資料の地図で6か所設置している。

市の施策としては、侵入防止柵、ワイヤーメッシュ(約2m)の資機材料経費の2分の1を支援させていただいている。ただし、柵に1か所でも穴や隙間があると、そこをイノシシ等が通ってしまうので、全体を囲むことが必要になる。当地区は、登山道や道路により柵で囲い込むというのは難しいかもしれないが、町内会単位で活用していただける施策となっている。

資料の2枚目は、皆さんへお願いしたいことということでイノシシのチラシを用意させていただいた。餌付けになることはしない。具体的な対策としては、夜間に外に生ゴミを置かない。翌日のごみ回収のために事前に生ゴミを置かない。墓地であれば墓参りのお供え物は持ち帰るなどになるかと思う。イノシシ等が隠れないよう、空き家・空き地の適正な管理をしていただくようお願いしたい。

資料の3枚目は、クマのチラシを用意させていただいた。食べ物の話はクマも同じで、生ゴミや餌になりそうなものは外に置かない。山林近くでは夕方から早朝にかけての1人での外出は避ける。屋外で行動する際には、クマ鈴のように音を出すものを身につけていただくようお願いしたいと思う。ご要望いただければ、先ほど紹介させていただいたチラシを各町内で回覧、もしくは各戸配布できる部数を準備し周知いただくことにご協力できると思う。

【地元】

柵は、(当地区では)ほぼ不可能かなと考える。箱わなの設置場所についても、久松校区内で6か所という話だった。なぜ、一番よく出没する樗谷公園が含まれてないのかと思う。

子どもらもこの山側を通学路として使っている。学校からは、マチコミメールで野生動物の目撃情報や集団下校の連絡など対応しているがそれも限界があると思う。事前に看板や柵ができないのであれば、わなを仕掛けるとか野生動物に対しての注意喚起の看板を増やすとかが現状できることではないかと思う。学校の生徒が被害にあわないよう注意喚起の看板やのぼり旗を目撃されてから設置するのではなく、早め早めにしていただきたい。特にクマのような冬眠する動物は、冬眠前・冬眠明けが一番危険だと言われている。今、日本中で被害が出ている。住宅街での対策は限界があるとは思いますがお願いしたいと思う。

【農政企画課】

農地であれば、柵で農地をぐるり囲えば作物は守れるが、市街地をぐるりと囲うのは困難だと考える。注意喚起のチラシとか、ご提案があった看板についても効果的な位置であるとか、どういふところにどの程度のものがあるのか、ご相談をさせていただきながら検討したい。

【地元】

箱わなが6か所設置してある。何頭ぐらい捕獲実績があるのか。今年を目撃情報は何件ぐらいあるのか。参考までにお聞きしたい。

【農政企画課】

近年の(実績)ということでお話させていただきたい。

令和2年が25件、令和3年が8件、令和4年が1件、令和5年が2件、全部で36件となっている。イノシシの捕獲頭数については、令和2年から5年までで25頭となっている。クマの目撃情報については、令和2年が10件、令和3年から令和5年が1件ずつとなっている。令和2年から5年に寄せられた目撃情報の合計は13件で、クマの捕獲については実績がない。

【地元】

野生動物も生き物なので、生きていかないといけない。柵をする、わなを設置することももちろん1つあると思うが、共存するという考えが現実かなと思う。長期的に見て、クマやイノシシが安全に暮らせるエリアがある、人も安全に暮らせるエリアがある。お互いに大きな衝突がないまちづくりをしていって、その中で個別に起きる問題もあると思うが、市としても考えていただければと思う。

【農政企画課】

例えば、夏が暑かったり急に冬になったりすると、動物たちが山でえさにしている木の実などがならなかったり取れなくなったり、仕方なく人里に出てくるという状況もある。自然相手なため、なかなか難しいところではあるが、何か長期的にできる方法については他のところの状況も見ながら考えてみたい。

【地元】

クマとイノシシの電気柵の購入補助があります、と書いてある。自分のまちを囲うことはないので、街中ではこの補助は使わないと思う。町内会であれば、(自己負担部分は)町内会費となるが、柵をするとなると栗谷町の谷は広い。捻出しようと頑張ったが無理だった。電気柵にもソーラーとかあるが、2分の1補助でもとても高かった。悩んでいることは伝えておきたい。

【農政企画課】

ご意見として承る。

【地元】

栗谷町は谷あいのため、鹿の声が毎日こだましている。実際に目撃するということであれば、イノシシやクマの比ではないくらいシカを目撃するようになった。実際に誰かが被害に遭ったと

いう話は聞かないが、例えば車で遭遇したときにはシカの大きさに結構驚くし、やはり角を合わせれば恐怖を感じるぐらいの大きさだと思う。夜7時など早い時間に目撃することもあり、注意喚起や対策など市の方で何かいい方法があれば教えていただきたいと思う。

【農政企画課】

当地区だけではなく、本市全体で野生動物の捕獲の件数は、最近シカがイノシシを抜くような状況になっている。シカの数がかなり増えているので、イノシシと同様ではあるが、注意喚起をさせていただきながらになる。

【地元】

最後をお願いをしたい。ぜひ個別の課題については、地域の課題として継続して話し合いをさせていただき、地域が(懇談会を)本当にやってよかったと思えるようにしていただけたらと思う。引き続き意見交換の場を作ってくださいようお願いします。

【地元】

今年の8月15日の台風のときに、なぜ情報公開をしないのか。住民にとっては、公民館も学校も開いた時点で全て避難所だと考える。一時立ち寄り所というような受け止め方をしていない。それだけは忘れないで欲しい。

当地区は山沿いのため、情報が必要だと考えている。情報公開を的確にして欲しい。住民に避難だと言っても動けないと思う。これは野生動物の情報に関しても同じだと考える。教育委員会が学校に周知するだけではない。市の防災メールもあるし、トリピー安心メールもある。とにかく情報公開が住民側にとっては必要なことだと考えている。

こういう災害に対して市と住民に意見の相違があってはならないと思う。市の捉え方は関係なく住民への情報提供をしっかりとって欲しい。住民にとって一番大事なのは、携帯電話、テレビ等で流れる情報であり、災害のときはそれが欲しいと思っている。今後の課題として対応していただきたい。

【市民生活部長】

多くの意見をいただきお礼を申し上げます。避難所については、引き続き地域と一緒に協議を重ねていけたらと思う。鳥獣被害についても、懇談会に限らずご意見があれば市へお寄せいただけたらと思う。懇談会で出た意見を持ち帰り、少しでも地域が良くなるよう、皆様が安心して暮らしていただけるよう参考にさせていただきたい。